

経営学教育における学士力の考察

【到達目標】

1. 企業をはじめとする組織の社会的責任の重要性について認識できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

企業と社会的責任(CSR)、ステークホルダー、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、企業倫理、経営倫理、エコロジーなど

【到達度】

- ① 組織を取り巻くステークホルダー(利害関係者)にはどのような要素と相互作用があるかを理解している。
- ② 経営倫理やCSRなどについて、具体的な事例を理解している。

【測定方法】

- ①は、組織とステークホルダーとの事例を示し、相互作用の説明をさせることで確認する。
 - ②は、経営倫理やCSRなどの概要を具体的な事例を用いて、説明させることで確認する。
- * 確認手段は、論述式の筆記試験、プレゼンテーション、レポートなどが考えられる。

【到達目標】

2. 企業をはじめとする「組織」の全体的な仕組みを経営資源と関連付けて理解できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

経営学概論、ビジネスゲーム、経営シミュレーションなど

【到達度】

- ① 企業・組織の構造と活動の枠組みを理解している。
- ② 経営資源の基礎的知識を理解している。

【測定方法】

- ①は、企業・組織の構造に関する理解とプロセスに関する理解を説明させることで確認する。
 - ②は、経営資源の基礎的知識(組織、財務、生産、サービス、情報システムなど)を確認する。
- * 確認手段は、筆記試験、プレゼンテーション、レポートなどが考えられる。

【到達目標】

3. 経営理論に基づき現実の組織行動を論理・実証的に捉えることができる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

市場、組織、戦略、マーケティング、ファイナンス、会計、情報システム、オペレーション、国際化など

【到達度】

- ① 現実の企業活動を例に取り、各種経営理論を用いた説明ができる。
- ② 経営データ分析の基礎的な手法を身につけている。
- ③ 現実に存在する組織の行動を経営理論に基づいて、実証的に分析できる。

【測定方法】

- ①は、経営諸理論、技能・原則に関して具備すべき知識をどの程度理解しているか確認する。
 - ②は、経営分析、統計的分析法、事例調査の方法などの理解度を確認する。
 - ③は、実際の企業事例などを対象にして、グループスタディあるいは単独で、調査・分析を行い論文に取り纏め確認する。
- * 確認手段は、筆記試験、プレゼンテーション、レポートなどが考えられる。

【到達目標】

4. 企業をはじめとする組織の一員として、現実の問題に対して解決策を提案・実践しようとする姿勢を持つことができる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

ゼミナール、卒業研究、インターンシップなど

【到達度】

- ① 企業・組織の経営目標に対して、個人が関わるべき義務と責任を理解することができる。
- ② 企業・組織の経営に関する課題を発見・分析・評価するために、利用可能な経営知識や技術を用いることができる。

【測定方法】

- ①は、ケーススタディを通じて企業・組織の経営に関する課題に対して、自己が果たすべき役割や解決案を提示させる。
- ②は、課題に対して、発見・分析・評価の内容および必要な経営知識が使われているかを確認する。